

第 18 回 自治区制度等行財政改革推進特別委員会記録

日 時 令和元年 6 月 26 日 (水)
12 時 58 分～15 時 25 分
場 所 議会全員協議会室

【委 員】 串崎委員長、芦谷副委員長
三浦委員、沖田委員、川上委員、上野委員、飛野委員、岡本委員、永見委員、
佐々木委員、西村委員

【議 長】

【委員外議員】 西川議員、小川議員、村武議員

【執行部】 近重副市長、石本教育長、砂川総務部長、岡田地域政策部長、前木健康福祉部長、
斗光市民生活部長、湯浅産業経済部長、石田都市建設部長、河上教育部長、
中村消防長、坂田上下水道部長、宇津地域政策部参事（浜田地区広域行政組合事務
局長）、
吉永金城支所長、塚田旭支所長、岩田弥栄支所長、田城三隅支所長、
佐々木市長公室長、山根総務課長、草刈財政課長、西川人事課長、
湯浅教育施設再編推進室長、曾利教育施設再編推進係長、
西谷行財政改革推進課長、浅田行革推進係長

【事務局】 古森課長、下間書記

議 題

- 1 行財政改革実施計画平成30年度実績及び令和元年度計画（案）について
- 2 「自治区制度」及び「新たな住民主体のまちづくりの方針」について
～各地域協議会等での意見を踏まえて～（委員間で意見交換）
 - ① 地域協議会のあり方について
 - ② 公民館のコミュニティセンター化について
- 3 その他

○次回開催 8月7日 (水) 10 時00 分

*後日、時間変更により総務文教委員会終了後となった

【会議録】

(開 議 12 時 58 分)

串崎委員長

お疲れさまです。それではただ今出席者 11 名全員で定足数に達していますので委員会を開催させていただきます。

本日の資料はタブレットに配布していますので、レジュメにそって進めさせていただきます。

1. 行財政改革実施計画平成 30 年度実績及び令和元年度計画（案）について

串崎委員長

執行部から説明をお願いします。行財政改革推進課長。

行財政改革推進課長

(以下、資料をもとに説明)

行革推進係長

(以下、資料をもとに説明)

串崎委員長

説明が終わりました。委員から質問・意見等ございますか。

岡本委員

73 ページの私有財産の利活用について、先ほど実績との乖離があるというお話がありました。私の認識では無償譲渡等の扱いの部分と、そうでない部分、さらに継続して使う形が出ていると思いますが、その辺の判断基準があるのかどうか、またそういうものを見越して計画しているのか、この 2 点についてお尋ねします。

行財政推進課長

無償譲渡の関係は計画実績としては上がってきていません。あくまで計画上に掲げているのは売却額と新たな貸付額で 1 億 4400 万円余り見込んでいたということです。

岡本委員

それでしたら私の勘違いだったようです。要はこのくらいの金額でこの財産は処分したいということで財政は見ていくのでしょうか、今度はそれを買おうという乖離だと思えます。これくらいで売ろうというこの基準はどういうものですか。これを売るためにどのようなプレゼンをするのか、どうですか。

行財政推進課長

売却計画に掲げた 1 億 4400 万円余りの金額については、市有財産売却計画を作る際に基本的には、不動産鑑定を取っているものはその額で計上しています。まだ鑑定を取っていないものについては、固定資産税の評価額からはじいた形です。結果的に実績と相違が大きかったのはこの固定資産税評価額で見込んだ数字が過大だった結果になっています。大きな要因としては、原井小学校プール跡地の所が約 2100 万円余り過大だったこと。それから那賀会館跡地は公募を延期したので 2100 万円程度の減がありました。他にも住宅団地が売れなかったこともあって 5 千万円余りが低い実績となりました。実際には売却

にあたっては公募でやりますので、事前に最低売却価格を公示して、それ以上の額で落札いただいた方にお売りする形でやっています。

岡本委員

原井小学校プール跡地 2100 万については、売却価格が安かったということですか。

行財政推進課長

今言った 2100 万円程度がマイナスだったということは、計画額よりも、見込みよりも大きく 2100 万円程度下がったということで、見込みが過大だったということです。

岡本委員

そこも見込みの前段での話は、薬剤関係の建物がありますよね、あその価格が基準になってこちらに反映されたために高く設定しすぎたのか、また、実際価格を入れるのかは分かりませんが、だいたい坪あたりどれくらいのレベルで 2100 万という金額になったのか、お話できればお聞かせください。

行財政推進課長

坪単価については今資料を持っていませんが、実際に昨年 12 月議会の総務文教委員会の中でも若干説明をさせていただいています。原井小学校については、実質売却額は 4800 万あまりです。先ほど言った固定資産税の評価額がこちらで計画していたのが 6 千万くらいでしたが、その差額で 2100 万が過大だったということです。実際に鑑定評価を取ったら 2100 万程度、落ちたというのが実態です。

串崎委員長

その他ございますか。

佐々木委員

事務事業評価実施結果抜粋なのですが、これは去年の平成 30 年 9 月頃に同じような資料をもらっています。A B C D の評価も一緒だし。同じ資料なのですか。

行財政推進課長

表を見ていただくと平成 30 年 9 月に出した実施結果の抜粋とさせていただきますので、同じものでございます。

佐々木委員

今回この資料で、何を言おうとしているのですか。

行革推進係長

あくまで参考資料として、事務事業評価でこういった項目があったかをお示ししています。それから先ほど少し触れましたように、見開き右側、下に 7 ページと書いてありますが、外部委託等を検討する事業では 2、3、4 番目の 3 項目について今回の行革実施計画の中に盛り込んだこと。それから 5、6 点目のことについては、計画期間外だったために今回の行革実施計画には載せてないという説明をさせていただいたのですが、あくまで参考資料です。

佐々木委員

分かりました。やがてこれがどんどん事務事業評価も追加していくという流れですか。

行財政推進課長	毎年、事務事業評価をやる予定は今の所、ありませんが、今後何年後かに事務事業評価をやった時には、また行革実施計画に反映していくべきものについては都度検討したいと思っています。ただ今回、昨年度やった事務事業評価結果についてはこの度掲載した4項目、行革実施計画上には4項目載せさせていただきますので、今回は4項目で終わる予定です。
佐々木委員	来年度以降、この事務事業評価に挙げられたものが行革の評価に上がっていくということですか。
行財政推進課長	事務事業評価は昨年度やって、今年度やる計画は立てておりません。ただ、数年後に事務事業評価をやれば、その時はまた必要に応じて行革実施計画にも反映すべきものは反映していく考えです。ですから、今回はこの参考資料に載せています事務事業については、他に追加する予定は今のところございません。
佐々木委員	全部でいくつくらいありますか。70くらいあるんですかね。そのうちの4項目のみ、行革の今後の検討に挙げて、あとは行革で検討することはない、かといって事務事業評価で検討したもののうち、DやE評価のものは事業から外していくという流れですか。
行財政推進課長	見開きの、下に6ページと書いてある所は、ア「元気な浜田事業」で36事業ございます。こちらは行革実施計画上は1本、1項目で挙げさせてもらっています。イ「外部委託等を検討する事業」の2、3、4番目、この3項目と合わせて4項目を行革の実実施計画の中に追加したという形で、元気な浜田事業は1くくり、1項目という形で上げています。
岡本委員	64ページの道路長寿命化についてお尋ねします。橋梁を除くトンネルという説明がありましたが、該当はいくつですか。
都市建設部長	市道のトンネルが3ヶ所ございます。
岡本委員	場所は言えますか。
都市建設部長	1ヶ所が三隅火電に行く釜屋トンネル、もう1ヶ所が生湯の埋立て第三処分場から国分に出る道、もう1ヶ所が旭町の、トンネル名を忘れてしまいましたが、市道ではその3ヶ所になります。
岡本委員	また教えてください。今のお話を聞くと、三隅の火電ということは、火電ができる時に作ったトンネルではないですか。
都市建設部長	そうです、火力発電所のすぐ手前にあるトンネルです。
岡本委員	私は生湯のトンネルは分かります。かなり古いなど。火電の

	トンネルはそんなに古いとは思っていないのですが、長寿命化が必要なのですか。
都市建設部長	火力発電所が完成する前にできた道路ですので、年数からするともう 20 年以上経っていますし、橋でも橋梁でも定期的に皆チェックしないといけないので、新しい物でもあげている場合はあります。
岡本委員	これは国県の補助金をある程度見ながら一緒にやっていくのか、市税単独で長寿命化するのか、お尋ねします。
都市建設部長	国の交付金をもらって調査しています。ちなみに橋梁については 1000 くらいあるのですが、それを 5 か年かけて今一巡したという状況です。
三浦委員	1 点確認で、自治体情報システムのクラウド化についてですが、結果的に単独クラウドを選択されたとのことで、共同クラウドはなぜだめだったのか、もう一度確認させていただいてよろしいですか。
総務課長	随分前になりますが、平成 25 年、前回の更新の時でしょうか、話して協議した経過がございます。その中でクラウドについては一旦断念したことがございます。その後も模索はしていたのですが、昨年度改めて次期更新の際に、現在浜田市が単独クラウドやっているのと、あと他の自治体、松江市や益田市さんに実際に各担当課へ連絡を取って、かなりの人数でシステムを見に行かせていただきました。共同にした時にはどうしても、現在の浜田市の現システムは、カスタマイズというか、浜田市の仕事のやり方に合う形で準備されているので、それを共同ということで、皆と同じ形のものを使うとなると事務のやり方がかなり変わったり、効率が下がるという結論に達しました。この辺りの更新については共同の場合でもカスタマイズをするとその分、極端に金額がかかるので、現在の単独クラウドを継続した方が事務効率化の面でも非常に良いだろうということで、昨年判断させていただきました。
芦谷副委員長	47 から 49 ページの新規について注目しました。例えば 47 ページの婚活について、考え方として、これを外部委託して本当に効果があるのか、現状・課題・将来像を見ていると見えませんので説明をお願いします。 それから、地域包括支援センターについても利用者にとってどうなのかの視点がないです。せつかく 1 ヶ所とサブセンターがあったりして各旧町村にも配置したりして相談しやすい態

勢を作ったはずですが、これがどうなるのか伺います。

次の放課後児童クラブも、見ると民間ノウハウを導入して子供達のより良い居場所となるよう努めるとありますが、かつて民間に任せきりで失敗した例がありました。これが本当にそれで良いのか、改めて新規として外部の民間委託とする理由の説明をお願いします。

地域政策部長

私から 47 ページの婚活関係の外部委託についてご説明します。事務事業評価の中で、行政がどこまで婚活に踏み込めるかも色々見解があって民間委託の方向性が示されました。これまでは嘱託職員を置いてやっていましたが、その部分について行革の中で落として、民間の方に事業委託する方向に切り替えた所です。ただ、これは全くの丸投げは考えておらず、行政も一緒に関わりながら進めていきます。人件費を落とした分、丸々減っているかという、逆に委託料含めてイベントや事業関係が少し膨れているので、差額として落ちたこととなります。

これから先のことをお話すると、当然単費でできるものについては見直していかないといけません。今は島根県でも県助成事業を入れて婚活に力を入れておられますので、その辺の活用も視野に入れながら、引き続き重要なことですのでこの事業に取り組んでいきたいと考えています。

健康福祉部長

48 ページの包括支援センターについてです。利用者にとってどうなのかですが、おっしゃっていただいたように今 5 ヶ所でやっています。同程度の施設は必要だろうと思っていますが、あくまでも受けてくれる所があつての話だと思しますので、今のところは受けてもらえるのかを探っている状況です。利用者にとってというところが大事なので、箇所数や、24時間 365 日、今と同じようなことは継続していただかないといけないので、利用者にとってサービスが下がらないようなことが前提で進めていきたいと思っています。

次の 49 ページの放課後児童クラブも同じで、特に具体的なことはこれからですが、実際に県内で見た時に委託でやっている所もたくさんあります。浜田市でも地元の実行委員会でやっていたりするので、純粋な民間もあると思いますし、場合によっては地元で組織していただくこともあると思います。それらも含めて色々検討してから進めさせていただきたいと思っています。行革の視点で言うと、最小の費用で最大の効果とか、民間でできることは民間で、というのがやはり基本

にあると思います。ただ心配しておられるようにサービスが低下することのないようにしっかり検討や協議をして進めていきたいと思っています。

芦谷副委員長

放課後児童クラブのことですが、だいたい今までの事を見ると外部委託して良くなった例はほとんどないです。私が見てきた限りでは。どうしても次世代の子供を育てるにはしっかりした行政の関与、責任を果たす体制がないと難しいと思います。

それから地域包括についても、例えばいろんな介護の關係の相談に加えて色んなサービスも抱き合わせてやるようにしないと、ただ地域包括の方向付けだけ外部委託したとしても、利用する人にとっても何となく分かりにくいし。もし思いがあればお願いします。

健康福祉部長

仮に包括支援センターを委託となると、例えば虐待への対応等の市がやっていくものは残るし、委託して終わりにはなりません。既に委託している松江や出雲を見ても、行政がかなり関与しています。委員さんのご心配はごもっともなのでしっかりやっていきます。

川上委員

ひゃこるねっと三隅の件ですが、見直しされて工程も2年先延ばしになりました。これまでも一生懸命されたと思うが評価がずっとCということは、今後もCが続けばまた延びるのではないかという気がします。統合に対する思いや目標案を作られても、36ページですね、すぐにはできない状態ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

三隅支所長

今回この事務事業評価において令和5年に手法見直しを先延ばしする形で変更しています。令和元年で、これから先の2局、石見ケーブルテレビとひゃこるねっと三隅の最適なあるべき姿に向けたロードマップ案を作ることを掲げていますが、これまで28、29年で評価Cと上がっていました。行革でも37ページにありますが、今回、財政効果を求めていたのが、番組制作の委託をまずやっていきながら、要は別々に作っているのを1つの番組にすれば番組制作費が要らなくなる所から話を始めていったのですが、地域協議会で説明してもなかなか理解が得られない所があります。やはり今の視聴習慣があるので。それと将来的計画が示されない中での説明なので、なかなかご理解いただけなかったため、28、29が足踏みしました。

30年度からは少し本腰で、切り替えてやっていこうということで、今後どのように取り組むかですが、部分的な番組統合だ

けではなく、その後も新しい技術が出てきたりして、石見ケーブルビジョンと機器の整備をダブってやらないようにしたり、施設の共同利用等も考えて、昨日来の一般質問でもご提案いただいた、防災面の活用も含めて石見ケーブルと浜田市とで協議を進めていきたいと思っています。その上で計画を作っていくながら住民のご意見もお聞きしながら、2つの局に最適な姿をこれから考えていきたいと思っています。

川上委員

防災面の活用の話が出て少しは安心しましたが、同じものが2つあるのはいかなものかという気がするので、早く統合できる形にして両者が歩み寄れる状態が作れたら良いと思います。

三浦委員

総務省が地方行政サービスの取組一覧を全自治体に調査かけて、浜田市のデータもそこに載っています。総務省が、国が推奨する行革手法の1つとして、ビジネスプロセスリエンジニアリングでしたか、民間が業務をどう設計していくかを参考にしながら業務効率化を図るために見直しをかけましょうというのを一つの手法として提案していて、県内まだどこもやっていませんが、そうした業務効率化をどうやっていくか、これは事業全般に言える話だと思います。そうした考え方も取り入れながら効率化を図るお考えは今後あるのか。今導入されていない理由が何かあれば教えていただきたいのですが。

行財政改革推進課長

国で取り組んでいる地方行政サービス効率化の取組は承知していますが、いろんな面で取り組みがあると考えています。窓口業務の外部化も出ているかと思っています。それらを含めた検討はなるべくしてきていますが、なかなか窓口業務を全部外部化するのは非常にリスクがあるという検討もしてきました。他自治体の事例も拝見しましたし、その自治体であまり成功していない実績も踏まえると、なかなか難しい気がしています。

いろいろな外部化は今後の方向性としては、いろんな施設運営については行政がやらなくても民間ノウハウを活用した方が良いものも多分にあるかと思っていますので、基本的には外部化の方向で進めようと考えています。そういった意味ではどんどん出せる物を出していこうとしていますし、民間ノウハウをしっかりと活用してやっていくつもりです。

三浦委員

この前一般質問でも申し上げたので繰り返すにはなりますが、それを進めていくという方針しか出ていない中で、なかなか実際に各担当課でどうやっていくかという話にはなかなか

串崎委員長

いかないと思います。新しいものを取り入れる際には時間もかかるでしょうし、これまでの手法を変えるわけなのでそれに伴うリスクももちろん生じるというのは承知の上ですが、やはり指針だけでは外部化は進まないと思います。行革視点からの業務効率化を更に進めていくのであれば、指針に伴うきちんとしたアクションプランを作るべきだと私は思います。業務効率化を進めるために仕組みも検討していただきたいと思います。

その他ございますか。

(「なし」という声あり)

では、執行部の方は退席されて結構です。お疲れさまでした。委員会はここで暫時休憩とさせていただきます。

《 執行部退席 》

[休憩 13時58分～14時03分]

串崎委員長

休憩前に引き続き、会議を再開します。

2. 「自治区制度」及び「新たな住民主体のまちづくりの方針」について ～各地域協議会等での意見を踏まえて～

串崎委員長

先般の委員会では地域協議会での意見ということで、5月中に開催された会議での意見について執行部から資料をもらっていましたが、その後、金城自治区では再度、地域協議会が開かれたということもあり、本日はそれを反映した資料を「①金城追加 各自治区地域協議会における最終方針への意見等について」として配布しております。金城自治区の欄の(追加)という部分が今回追記された部分です。

また、6月19日に開催された正副会長会議でのまとめについても、タブレットの方に「②地域協議会正副会長会議における意見等について」ということで配布しています。

それでは、意見交換に入りたいと思います。

それを踏まえて、先般の委員会でありましたが、今後は、レジュメにあるように①地域協議会のあり方について、②公民館のコミュニティセンター化について、の2つを柱として協議していけばということ聞いています。そういうことを含めた意見交換をお願いします。

川上委員

先般の委員会で6月19日に地域協議会正副連絡会議があるから、そこでもう1回意見が出てくるでしょうと話して、できたら皆さんにも傍聴に来ていただければ良かったのでしょうか、私だけだったので、私から一言、当日の状況だけご報告し

ます。

この意見は意見として、皆さんの顔を見ながら聞いた感じだけ申し上げます。会議の冒頭に、旭自治区地域協議会会長の馬場さんから3対2の状況だと報告がありました。自治区制度廃止賛成なのが浜田・旭・弥栄、金城と三隅は反対していると。途中で色々意見がありましたが、最後に馬場会長さんが決を採ろうと言われました。意見を統一したいがどうだろうか。何度もおっしゃいましたが、意見を統一する場ではないという発言が出て、結局意見統一はされませんでした。正副会長連絡会議というのが意見統一の場ではないのは、皆さんご存知だったので難しかったと思います。それから、まだ意見がまとまるとかまとめようという状況ではなかったとだけ言っておきます。

執行部側の答えも、方向性は1年後には廃止でやるけど、まだそれにはいろいろ問題があるので1年間でどうにかしたいが、確実に1年でできるという返事はなかったです。できなくても1年後には新しい方針が変わって、若干時間を使ってでもやりたいという、曖昧模糊で先の見えないお話が多かったように思います。

特に一番気になったのは、三隅地域協議会会長さんから出たお話で、このようにいろいろ問題があるけど議会の特別委員会では提言があるではないか、この提言も執行部はしっかり見ていただきたいとのことでした。私もせっかく提言しても全く反映されないのは執行部の議会軽視だと、それなら初めから聞くなという気持ちになるのは当然だと思います。

やはり浜田自治区の地域協議会会長さんは、どうしても自分の他自治区の方々からは、支所の人間が減っているから心配だとか心配事ばかりだと言われましたが、浜田自治区も同じだと。浜田も役所の人間が減っているから心配な部分があるとおっしゃっていました。私としては合併時に比べて浜田は400人くらい増えたのに変なことを言われるなと思いながら聞いたけど、心配な部分はどこも一緒と思います。金城も弥栄も旭も三隅も、浜田も。ただ心配の方向性が違うだけだと思います。その心配部分を再度掘り起こして、お互いに歩み寄れば何とかなるのかなど。そのためにも今ここで止めてしまうのではなく、心配部分を解消するために歩み寄って初めてやめたらいいのではと思いました。

串崎委員長

ありがとうございました。川上委員から先般の地域協議会正

芦谷副委員長

副会長会議の報告をしていただきました。今日の進め方としては今のご意見もお聞きしたり、タブレットに入った資料もご覧になっていると思います。今日のところはどのような形にさせていただきますでしょうか。何か皆さんに思いがあればお聞きします。

前回の会議で 19 日の正副会長会のことと、各議員が一般質問をするので控えたいということ。それが終わってしまって、各議員からぜひ一般質問も会議も踏まえて、いったいどういう考えなのかを披歴してもらって、できればこの委員会なりの前回の提言に加えて、方向性くらいは出さないと後の話が難しいので、私としては一般質問等を踏まえてこの時点の各委員のお考えをお聞きしたいと思います。

串崎委員長

副委員長から、皆さんの思いを聞かせていただきたいという話がありました。その方向性でやらせていただいてよろしいですか。

(「はい」という声あり)

では三浦委員から。

三浦委員

全般的にやると、ただ意見を言って終わりになりそうなので、テーマはご提供いただいてそれに対して議論の方が建設的かと思いますが。

串崎委員長

三浦委員から意見がありました。テーマを決めての議論の方が良いとのことですが、テーマはどうしましょうか。この前聞いた 2 つのテーマを 1 つに絞って、とりあえず今日皆さんのご意見を聞く形で進めさせていただきますでしょうか。

川上委員

19 日の意見もありますし今回の一般質問の中にもありましたが、コミュニティセンター化について、この運営をまちづくり推進委員会にさせたいという意志を市がお持ちだということは、まちづくり推進委員会のこれからのやり方、今できてない所について、どういう形で作っていただくか。またはできていないところでも、まちづくり推進委員会だけでなく町内会がしっかりコミュニケーションを取っているから良いのだという話もありました。それを含めて、コミュニティセンター化をやる際はどこまでを 1 つにまとめてやるのかも含めて考えられた方が良くと思います。

三浦委員

一旦この特別委員会で、自治区制度に関する提言を一度まとめて出しているわけで、今後この議論をどこに着地させていくのかがなければ、またそれも、議員間討議はすべきだと思いますが、やった先に何もないので、川上委員からもご提案があり

ましたが、例えばコミュニティセンターの在り方についてどうなのかについてこの特別委員会で考えましょう、そして1つの考え方を出示しましょうというゴールを設定して委員会を重ねる方がよろしいのではないかと思います。

串崎委員長

三浦委員から、ゴールを決めて討議を、というご意見がありました。ゴールを決めるとなると提言という形になると思いますが。提言に向けて皆さんとの議論を進めるということによろしいですか。他にご意見があればお願いします。

沖田委員

私は三浦委員の意見に賛成です。

串崎委員長

その他ございますか。

(「なし」という声あり)

ではその方向で提言ということで。公民館のコミュニティセンター化の話がありましたが、それ以降に絞ってなのか、もう1個、地域協議会の在り方についてなのか、かなり深い話になってくるので、時間があれば両方やりますが1本ずつに絞った方がより良いのではないかと思います、どうでしょうか。

川上委員

三浦さんが言うように1本に絞った方が良いと思うけど、コミュニティセンターの運営をまちづくり推進委員会にという方向性があったということは、まちづくり推進委員会ができてないと地域協議会がなかなか難しいし、いろいろ組み合わせがあるのかなと思いながら頭の中で整理していて。コミュニティセンター化の話だけでも良いのかなという疑問もありました。ただ、1つに絞る必要があるのは事実だと思います。まとめていただいたらやりやすいです。

三浦委員

なぜそのコミュニティセンターが必要なのかとか、なぜ地域協議会が必要なのかは、そもそも住民主体のまちづくりを進めるためにこういう組織が必要なのだという話から来ていると思います。そうすると住民主体のまちづくりを浜田市でどう進めていくのかを考えていけば、もちろんコミュニティセンター設置だけで片付く話ではないし、コミュニティセンターをどう作っていくかを議論していけば自ずと、地域協議会はこうあるべきだ、まちづくり推進委員会がこのように機能していくと各地域の活動がこのように活動的になっていくのではないかと、というのは全部繋がっている話だと思います。川上委員もきっとそれをおっしゃっていたと思います。

私の言い方も言葉足らずでしたが、コミュニティセンターの在り方についてというよりは、住民主体の地域活動をどうアク

タイプにしていくかを考えていった時に必要な組織や仕組みは一体何なのかを、少し俯瞰して議論する方が着地としてはよろしいのではないかと思います。

川上委員

私の言い足りない部分を全て言っていただきまして。私もその方向でやらせていただくのがよろしいかと思います。

串崎委員長

分かりました。三浦委員、川上委員からご意見が出ましたように、大きな角度からやっていっても全て出てくるという話だったろうと思います。

そうすると今日のところはどうしましょう。次回も2時間程度を予定していますので、皆さん、今の話を聞きながら思いを言っていただき、議論していただきたいと思います。

岡本委員

私の地域の例をあげながら、必要性を述べたいと思います。一般に那賀郡の地域協議会から、浜田はまちづくりができてないご指摘を受けます。いろんな諸条件があるのは事実ですが、作り方の視点において悩んでいるのも事実です。そういう意味でコミュニティセンターは主導的立場、いわゆるサポートするポジションだと私は位置づけて思っていますので、どうしたら浜田のまちづくりができてない部分をサポートしてもらえるのかを、話し合いながらコミュニティセンターの必要性、実務的にやっていただきたい内容を集めて1回させてもらおうという気持ちがあるので、皆さんと意見交換がしたい。

上野委員

前回も言いましたが、浜田の地域協議会の時に参加させてもらって、いろんな協議会の皆さんの意見を聞かせていただきました。僕ら他自治区からいろんなことを言えば、今言われたように浜田はできてないという言い方をしては大変申し訳ないですが、そう見えたのです。例えば中学校区単位くらいに地域協議会を増やしましょうという話になれば、市内の議員さんもそのことを言っていますので、そういう所から前に進めていくという言い方をしてもらおうと僕らも言いたいことをしっかり言えるということだと思います。まちづくりにしても、自慢げに言ってもいけないが僕らは早くから多少進んだ部分もありますし、そういうのを、角が立つかもしれませんが入りやすい所からお話させていただきたい。協議会をどうやったら増やせるかということとかですね、どうでしょうか。

沖田委員

上野委員さんの意見と近いのですが、要するに浜田自治区の公民館と旧那賀郡の公民館では機能が全然違うと思います。というのは、人口比率も違うし、まちづくりができていればまち

づくりの中にある公民館の役割と。極端な話、私の母は公民館は住民票を取りに行く支所としか思っていないレベルです。そこから先を話し合っていくのだらうと思いますが。何と云うか、レベルの不均衡をどうするかということ話し合ったら良いのではないですか。

岡本委員

私も多分同感だと思いますが、皆さんまちづくりと言われますが、まちづくりと我々がやる自治会活動とどこが違うのかと思います。要は、まちづくりと今私たちが市内でやっている町内会の活動がどこが違うか。ただ、町内によって町内会がない所がないところがある。そこについては、何らかのサポートをしないとイケないのだらうと思います。例えば災害時等、一体どうしたら良いのか。どうしたら自治会は再生できるのかとなると組織は必要だらうと思っています。我々の町内会は運動会もやるし餅つきもします、ある程度やれることはやるのです。どこが違うのか、というのが率直な意見です。ではそういう中での公民館の役割はと言えば、貸館業務だという位置づけが1つ。その中で趣味のことをやるとか。もう1つは色んな届出や住民票を貰ったりする場所、という感覚しかない。実は我々は、まちづくりにそこまで必要性を感じていないのが現実だらうと思っています。つまり、皆さんが言うほどまちづくりの必要性が分からない、見えていないということだけお話しておきます。

川上委員

岡本委員の言われたことは非常に分かります。そんな感じでしか先日の話も聞こえてこなかったのです。しかし防災といった面から見ると、やはり1町内会単位ではなく広範囲の、お互いの活動を一緒にした何かが必要ではないかと考えると、その辺りがまちづくり意識に近づくのではないかと思います。岡本さんの言うことも分かるが、もう少し広くした方が良いかなと。

三浦委員

お二人に聞いてみたいのですが、町内会の活動とまちづくりの活動と、何が違うのですか。僕は岡本さんがおっしゃっていた活動も、広義で言えばまちづくりの活動を自治会がやっているだけの話で、そうした活動も立派なまちづくりの活動だと思います。それがなぜ否定されるのか僕は分かりません。何が相違点なのか。

川上委員

私自身もまちづくりと町内活動に特別な差異はないと思います。ただ、範囲の違いというか、町内会を越えた範囲の付き

三浦委員

合いがあって、お互いが一緒にやる部分くらいかなと。範囲が広いだけだと思います。やっていることは同じことです。自治会という名前、まちづくりという名前のどこが違うのかと言われると皆さん困ると思いますよ。

そうすると、例えば自主防災という観点がなかなかないのでこれから進めていこう。「まちづくりとはこういうことを考えることだ」みたいなことがないと、川上委員が言われたように、どっちがまちづくりができていて、ここはできてないとは言えないと思います。例えばまちづくりを考える組織はエリアの大小関係なく、この町内では自主防災組織はこのように考えてこのように活動していきます、あるいは自分たちのコミュニティ維持についてはこういうやり方でやっていきます、というような、三隅等はそういう計画を作られてやっている。僕はこれがまさにまちづくりだと思います。ただイベントをやるだけでは、まちづくりとは言えないと私は思っています。ですから、そうしたことを考えていく組織がそこにあって、それを運営していく委員会があるなど、そういう整理は必要だと思いますが、活動1つ1つを、これは正しい、これは間違っているというのは言えないかなと。いま一つ議論が噛み合わないのは、そういった整理ができてないのが理由の1つにあるのではないかと感じるのですか、いかがでしょうか。

川上委員

まちづくり推進条例というのがあったと思うけど、その中に、三浦議員が言われたように何か目標を作って、そのために委員会を作って皆でやるというのがあったと思います。やり方そのものはそれで良いと思います。ただ、古い形の町内会というのは今の活動を継続するのがメインであって、新しい活動を考えて次のステップに進むのは難しいと思います。それを改革というか、変えていくのがまちづくりではないかと思えます。

沖田委員

私らのところもまちづくりがまだできていません。先ほど三浦委員が言われた、では自治会のイベントとまちづくりと何が違うのという点ですが、僕の勝手な解釈は、自治会はある程度義務的に出るものだと思っています。まちづくりはこういうことをしないかと立候補する任意の団体だと持っています。私はその違いかなと。ただ、イベントばかりやっているのはまちづくりではないです。だったらどうしていかは当然組織がないから誰も分かりません。三隅が確かにまちづくりが進んでいるから、やり方を教えてもらいたい。それをやっていけるのが公

三浦委員

民館なのであれば、公民館の在り方を今後提言していけたら良いのではないかと。

沖田委員が言われましたが、仮に自分たちの町の計画を作って活動して行けている地域には、公民館の存在がとても大きいですし、公民館が地域の活動に果たしている役割が、本来の活動にかなりプラスアルファして、まちづくり活動をかなりサポートするような形になっているのだと思います。それは今まで言われていた公民館活動を大幅に超えて、いわゆる執行部が言われるコミュニティセンターそのものなのだと思います。だから地域活動ができていないエリアにおいて、何をしたら良いかわからない状況なのであれば、それに対してサポートしていくのが、今までの公民館ではなかなかできない。それをまちづくりまで踏み込んで人材も揃えて膨らませていこうというのがコミュニティセンターの考え方だと僕は理解しています。ですからできている所は、今もうそこにコミュニティセンター機能があるので、できてない所にコミュニティセンター機能をきちんと置くという意味では、市全体でまちづくりを促進していくためにも、今まで社会教育の土台となってきた公民館がさらに土台となってまちづくりをアシストできるような組織に改編されていくというのは、私は賛成です。

ですから教えて欲しいという所をどうやってサポートするのか、そういう役割が浜田市内には特にないというのが1つの課題だと思います。今の公民館のエリア配置で各まちづくりが本当に支援できるのか、支援が十分にできる人材がいるのか、ノウハウが今の公民館にあるのですか、といった時に疑そこに問符がつくので、今の公民館制度ではそのまちづくりを推進する拠点としては機能が不十分なのだろうと、私は思っています。ですから今の公民館の方々が大変不安に思っている、それは組織の看板も今変わろうとしている中、いきなりコミュニティセンターになると自分たちの活動が大幅に変わるのではないかと。こういう不安を持たれるのは、もちろんのことだと思いますが、その話をしっかり整理して、なぜ公民館をこのようにバージョンアップさせるのかの理由をきちんと説明したら、浜田自治区においては公民館をコミュニティセンター化していくことの方が、浜田自治区内のまちづくりを進めるために必要だと思っています。

岡本委員

私が言いそびれている、私の地域の実情をお話しします。川

上委員は単一町内はいろんな活動はできている、それをもっと拡大して近隣町内に波及するのがまちづくりの1つの考え方ではないかという話が出ました。実は私もそう思いますが、では手法として何があるのかといった時に、まちづくりしましょうと隣の町内に声をかけても「まちづくりって一体何だ」と言われたら答えようがないのです。私が今やっているのは自主防災という位置づけ。今の単一町内で何かあった時に助け合うことができない、そうしたら町内をお互いにまたいででも、繋がって避難しましょう、例えば手助けのいる人については一緒になって避難しましょうという形の自主防災の広がり大きく持たせることが必要だし、それが一番皆さんの危機意識も含めて作りやすい環境だと思っています。だからコミュニティセンターに絡めてまちづくりしましょうと言われても、多分私の年代を中心としている私たちの町内は、そんなものは不要だと言われるだろうと思う。本当の課題は、自主防災が私たちだけではできないということを皆さんに理解いただいてやる方法が、一番身近にやれる手法かと思っています。

芦谷副委員長

ちょっと違うのですが、私は朝のごみ出し、子供の見守り、一斉清掃、祭り、地区行事、そんな日々の各地区独自の活動だと思っています。それは濃淡があると思います。現状を踏まえて、他のまちづくりを見て良くなることを市は応援すれば良いのであって、あまり、まちづくりや町内会の定義づけや理由をここで議論しても仕方ないと思います。したがって、浜田はまちづくりが進んでないということですが、それは必要性がなかったからかもしれませんし、自主防災は市民の安全安心に市がしっかり力を入れて取り組めば良いのであって。一般質問で言っても、各地域の特性があるので一調子には難しいのです。そのため住民自らが考えて良くなるようにするために、行政とすればどういう仕組みを作ってどういう支援をするか、そういった制度作りを執行部も市議会も考えていく。違いを認め合って支援することを考えれば良いと思います。

岡本委員

制度作りは理解しますが、実質住民がどういうアクションを起こすかが重要で。我々の地域で例として挙がるのは、アパートやマンションの住人が地域活動に参加してないので、それをどう参加させるかになるのです。もう1つの問題は、町内会長も高齢化しています。次の世代はどここの町内でも見えてきていますが、その方々をどう引っ張り上げて町内活動に参加させる

芦谷副委員長

かが課題になっています。だから制度とかの問題ではなくて、かなりドロドロしている。人との付き合いをどうするかの話になっていると思っています。制度ばかりやっているとまた、上から圧力を受けた感じになるから、そうではなく、まちづくりのための横の繋がりを広げるようなものを提案するのが必要だと思いますし、コミュニティセンターの指導的な支援もそういうことを中心にして欲しいというのが私の考えです。

永見委員

アパートと言えば若者です。そうすると若手がまちづくりに参加する仕組みを作らないといけないし、アパートや集合住宅に特化したまちづくりメニューがあっても良いと思います。それは団地があって、集合住宅があって、区分けがあると、そこが上手くいかないということは良くあります。微に入り細に入りの特殊事情をよく考えて、それがまちづくり・地域づくりに参加できるような仕組みを考えれば良いと思います。

私の感覚としては運動会や盆踊りは自治会の行事だと思います。今まで自治会でまちづくり組織ができる前は、そういう形の行事については、自治会でやっていた。それを今度、私の地区では、そういう形のものは自治会がやっている。その上にまちづくり委員会があり、それは地域の課題解決を皆さん方と相談しながら地域づくりをするのが本来のまちづくりであるということで、まちづくり委員会の集まりにおいて、地域課題を皆さん方と協議してまちづくりを進めている状況です。

だから自治会行事とまちづくり、重なる部分もありはしますが主には、まちづくりはそういう形で進めていて、私はまちづくりイコール地域づくりだろうと思います。その辺りは皆さんと地域課題を検討しながら進めていくのが本来のまちづくりではないかと思います。

川上委員

自主防災についても、実際に災害が起きた時には、自主防災がどういう活動をするのかということまで、防災マップを作ったり、色々しています。自主防災の取り組みとまちづくりの下部組織で自主防災がありますが、そういう面の課題の解決に向けての取り組みが本来のまちづくりではないかと思います。

最近はどうしても行政サイドとして細かい所まで住民のために手を伸べることは難しい時代になってきているので、それをカバーするのが住民自治、住民活動だと思っています。自主防災も、自主防災を皆さんと一緒に考えて何とかしようというツールだと思います。ツールを動かす人が要る。動かす人を育

てるのが公民館、公民館活動。そうなってくると公民館は十分使うこともできるし、公民館自体がツールの1つだと考えています。まちづくり活動というだけでなく、自分たちの生活のために今から必要なのは何かを再度考え直しながら、住民自治を十分進めていくことが大事なので、そのためにそれができる人を作る公民館、あるいはコミュニティセンターかもしれない。そういう意図で使うことを組み合わせたら良いのかなと思ったのですが。

岡本委員

永見委員の言葉尻を取って言うわけではないですが、地域に課題があって、課題解決をするのがまちづくりだと言われますが、私のところの課題は何だろうと思った時に、私どもに課題は見当たりません。浜田公民館内では田町が一番進んでいるのですが、あそこのまちづくりはまず自主防災からスタートしています。自主防災をして皆が集まって、自主防災必要だよねと意思統一しておいて、それから地域をどうするか、という流れでやっています。私がここまでにお話したように地域課題が見当たらないから、自主防災という観点をスタートにするしかないと言っているのです。課題、課題と言われても、課題なんて実際にはないのです。例えば草刈りの問題があるわけでもないです。市内はですね。ただ中山間地にはそういう状態でない所があるのは認識していますが。要はまちづくりの位置づけが温度差がある、考え方はかなり差があるのだということを頭に置きながら行かないと、旧浜田市の皆さんに課題、課題なんて言っても、課題を見つけることがなかなかできない。温度差を頭に入れて進めていただきたいと思います。

三浦委員

岡本さんにうかがってみたいのですが、運動会や盆踊りの活動は何のためにされていますか。

岡本委員

私の町内のことで話をしますが、私は片庭の6町内のみならず、港町1の1、それから2町内も一緒になっています。それは横の連携を取りたいから。もちろん、それによって顔見知りになるのでいろんなこともできますし。私の中で、次のステップは盆踊りもまちづくりのツールだと思っています。自主防災もツール。今問題になっている高田町は、旧町内会長と若手が揉めて崩壊して10年経ちます。そこでは私たちは子供会を通じて色々やって、盆踊りを近隣で一緒にやりませんかと声をかけている。だからこの前の原井幼稚園の休園について疑義を申し立てたのです。要はまちづくりのために横の町内と一緒にな

三浦委員

って、一緒にソフトボールしたりしていました。そういう横の連絡が取れていたのが全部なくなってしまったから、そういうつもりで「やっぱり必要だ」と言っているのです。

僕は、浜田自治区が一番の課題は「コミュニティがないこと」だと思っています。だから岡本さんご自身がお住まいのあの町内で、盆踊りをされたり、そういう活動をされているのは、課題解決だと思うのです。コミュニティがないから地域でまとまって何もできない、それは根本的に、安否確認ができないとか、例えば治安問題にしても、コミュニティはまちづくりの根底にあると私は考えていますが、そういうものがないこと自体が課題で。永見さんたちのエリアでは既にそういうものがあるって、その先に一緒に考えられる仲間がいるので、課題感のレベルがあるというお話だと思います。だからその差がもうかなり大きいのが現状で、ですからコミュニティを作るために何をしていくのが良いのかといった時に、盆踊りも一つハードルの低いきっかけでしょうし。例えば自主防災で言えば、浜田市全体で自主防災組織のカバー率がどれだけあるのかといった時に、欠落している所がすごくたくさんあると思います。そうするとそういうものを埋めていくこと、100パーセントのカバー率も1つのまちづくりだと思います。では何が必要になってくるのかと言えば、自主防災を作るために防災のプロフェッショナルが公民館やコミュニティセンターに配属されて、浜田市全域のカバー率を100パーセントに持っていくという具体的な事業があれば、コミュニティセンターにどんな人を配属すれば良いのかが明確になりますし、結果的に100パーセントカバーされたら、それをまちづくりの1つの目標にしても良いと思います。その目標もよく分からない。どうなったらまちづくりは成功しているのかもはっきり分からない。皆が元気で、と言っても皆が笑顔であることなのか、健康であることなのか、それも分からない。だからそこを明確にできてないのが1つの課題だと僕はお話を聞きながら思いました。

決して永見さんの話も岡本さんの話も、私は課題があるという意味では同じだと私は思いますし、そのギャップがあることを認識して、どういう組織体制が必要なのかをまち全体で考えていけば良いのではないかと思います。

串崎委員長

時間も過ぎてまいりましたが、まだ発言のない方、もしご意見があれば。強制ではございませんので。もし発言がありまし

川上委員

たらお聞きしておこうと思いますが、どうでしょうか。

岡本委員の話を聞いていると、しっかりまちづくりのために頑張っておられるという気がします。三浦委員が言ったように、それこそ、ああいう形でやれば一番良いと思います。既に岡本委員の周りでは活動されているので、このまま続けていってぜひ先に進めていったら良いと思います。

飛野委員

まちづくりの話ですが、非常に幅広いというか、温度差があって進めにくい点があるのではと思っています。先ほどから浜田はどうだ、三隅は進んでいるといった話がありますが、根底は一体的なまちづくりができるようになるのが自治区制度の廃止に繋がる。それが根底にあるべきだと思っています。その中で一体的なまちづくりということなら、できる地域はできるように進めていきなさい、できない所は後からでもついていってください、というやり方ではいけないと思っています。あくまで一体的にスタートするべき。それが完全にできないとか、難しいとなれば、1年延長という部分を遡って考える。でないとなれば一体的なまちづくり、廃止して本当に一体的に前を向くことはできない、これが基本だと私は思います。これに尽きると私はと思っています。

佐々木委員

いろいろ聞かせていただきありがとうございます。元々の議論の課題というか、委員長が言われたことですが、何についてというのがだんだんわからなくなりましたが、自治区制度そのものは、僕は形として残っていくと思います。ただ自治区長がなくなって、予算が縮小されることくらいで、あとは変わっていく。その代わり、まず協働の条例を作る。皆で同じ思いに向かってまちづくりしましょうという条例を作って、その明らかなものとして公民館のコミュニティセンター化というのが大きな目標として出ていますが、皆さん一般質問もされて、執行部もまだ見えてないし、我々もどうすれば良いかという提案等、とてもできる状態にはありません。

まちづくりと言われても、自分たちが暮らしやすくするためにどうするかが、このまちづくりの原点だと思うので。今までは地域担当制や自治体側でいろんな住みやすい制度も作ってもらっていたのが、どうもこれからは公助とか自治体等に頼れない時代になってくる、ではどうすれば良いかという、やはり先ほどの協働のまちづくり推進条例とかいったものをもとに自助・共助を進めていく必要がある。それがこれからの住民

自治というか、住民の皆さんが、自分たちが暮らしやすくするための大きな流れだと思えます。その上で何をして良いかについて、いろんな議論があったようです。我々がここで何を提案して、どうすべきかは、非常に難しいし、今回の地域協議会の意見をどう取り扱うのかというのも、地域協議会の皆さんが議論して挙げたものに対して、我々が何かするのはおこがましい気がします。ですから既に我々は特別委員会として提言を出していますので、一応その辺で、それ以上を受けて、賛成3で反対2という話もありましたが、またどっち付かずの回答になるだけの話なので。その辺は今後の提言はなかなか難しいのかなという整理が1つ。

そして今後の自分たちが暮らしやすいまちづくりについて、我々がどう議論し何が提案できるのか、という方向で進めていくべきかと思えます。

串崎委員長

だいたい今日のところは議論が出た形だと思います。佐々木委員からも大変難しい問題だということではありますが、一応提言に向けて何とかという話になっています。強制ではありませんが。何かもし意見があれば。

岡本委員

どうも委員長が着地点が見えないので。要はコミセンについて我々は提言するという事にまとまったのですか。そのことについて確認です。

串崎委員長

最初の段階でそういう話で、一応提言までという話で最初まとまって、今議論しています。佐々木委員はなかなか難しいだろうというのが個人的ご意見だろうと私は受け取りました。それを提言までやってできなかった場合はそれはどうするかということではありますが、一応議論を尽くして提言に向けて。まだ時間はありますので。

芦谷副委員長

先ほど地域協議会の意見が出ました。私は前も相当言ったのですが、結局、自治区制度を13年間も運用しながら、ほとんどこういったことを説明もできずに何となく、同床異夢というか、同じものを見るのに、それぞれが違うものを見ています。

地域協議会でも3対2になったそうですが、この1年かけて執行部は同じ絵を描いて各自治区に示してから、そこに向かってがんばろうと進むような合意作りをする責任があると思えました。そのためにも議会でも各地区選出議員は、いろんな利害を超えて、自らの政治信条も含めて、ある程度の意見を披歴して、できればこの特別委員会の中で執行部の後押しをするよ

うな方向性を出して行ければと思っています。そうしないと、ここで議論だけして終わったのでは意味がないので、ぜひとも各議員さんの立場を思い出していただいて、執行部の後押しをしていただきたいと思います。

川上委員

大変、副委員長から重たい言葉が出てまいりました。執行部の後押しをするためだという話がありました。執行部がまだふらふらしているのに、それをどうやって後押しするのか。私どもは現時点では執行部の後押しをするのではなく、私ども委員会で何か考えて、できれば再度提言したい。先ほど、3つも提言しているのでそれ以上は難しいという話がありましたが、今日のスタートでありましたように、コミュニティセンターとしてはこういう形で考えようということについて考える方向性の方が、より一層良いかと思っています。

西村委員

私はずっと自治区制度を含めて、まちづくりに対する思いは、実態を見てもかなりやはり地域間で差があるという思いが非常に強くて、いつも引き合いに出すのは三隅のまちづくり組織の実態と、浜田を比べてみると、違いがあり過ぎて。それを一つの執行部が描いているようなものに当てはめて、進めようというのには、私の気持ちがなかなかすんなりいきません。コミュニティセンター化も同じくで、非常に長い歴史の中で、三隅も旭も金城も、町内という組織、あるいは自治会という組織だけではなくて、それを地域的に集めて、旧町村レベルの1つの町なり、村なりの意見を集約していく、そして方針が決まればそれが各組織に下りていくという、ずっと歴史的に積み上げられてきた重みを私はすごく感じています。

翻って浜田を見ると、特に私が危機感を抱いているのがこの辺です。中心部、市街地。ここがかなり悲惨な状況だなと。いわゆる空洞化現象と言いますか。祖父母の代が中心部にいて、その子供世代が例えば周布にいるといったパターンが結構多いです。中心部が非常に寂れて、町内としてはあるけど、自治会としては機能していないような実態があって、とても中心部でまちづくり委員会を作ろうといっても、本当それが組織化できるかという、私は具体化の道筋が見えない。そうではない地域、私らがいるような熱田・長浜へ行くと、まだ形として、現実として協議会に近いものがあるって、未だに長浜では年に1回運動会が開かれるという、実質的機能として存在している組織があるって。だからコミュニティセンター化も含めて、そうい

う地域だったら何とかやっていけるのかなと展望も持てるけど、果たして片庭や殿町の方でそういうことが可能かと言えば、なかなかそうはいかないのではないかという気がして踏み込めません。

まちづくりとはどういうことか、という話が先ほどからあって。だからコミュニティセンター化のことだけでも結構、この中だけでも議論の時間が相当、時間的にも必要ではないかと思っているし、それをずっと市全体でやっていくことも含めて言うと、1年やそこらで簡単に結論が出る気がしません。話をする必要はとても感じているし、そのことについて賛成ですが、そんなに簡単に結論や方向性が出ないのではないか、というのが個人的感想です。

岡本委員

少し西村委員が言われたことに抵抗があるので払拭しておきますが、悲惨な状態といのが何を指しているか分かりませんが。町内会ができてないのは高田町。あとは全部町内会があって活動しています。確かに若者がおらずお年寄りが多くなっているのは事実です。要は横の連携をして行けばそこは何とか救えるのではなかろうかということで活動して、現在、松原も殿町も動いています。悲惨な状態と言うと手を付けられないという解釈で取られやすいので、そうではない、今まさに救いようがあるから手法をコミュニティセンター化の中で支援してもらうのが必要ではないかと私は言っているのです。私の話としてはどちらかという、まとまりやすい話だろと思います。地域協議会がどうしようとか、まちづくりがどうしようと言ったらなかなか難しいから、コミュニティセンターから手法の提案があれば私たちもやれるわけで。少し方向を変えて攻めていくべきではないかと言っているのです。

三浦委員

西村委員のご意見について伺ってみたいのですが、今、中心市街地でそういう組織ができていないという認識は、悲惨な状況というレベルかどうかは置いておいて、私も同じように思っています。その十分でない活動をどうすれば活動的な組織にしていけるか、地域にしていけるかという時に、私個人的にはそれがコミュニティセンターという形でできていますが、コミュニティセンターでなくても、活動を支援するようなもの、例えばまちづくりを支援するようなNPOがあるとか、それならそこが補完する方法もあると思います。現実、浜田にはそういう組織がなくて。行政という立場ではない所で同じような感覚を

持ってまちづくりを進めていこうという組織が浜田にはない中で、地域のそういう自主組織と一緒に行政が意識を合わせながら進めていくのが浜田の形なのかなと思っている時に、浜田の中心市街地がある意味十分でない状況にあるので、どういったら、私個人的にはコミュニティセンターがサポート組織を作ってやるスタートに立つことが1つの解決策ではないかと思うのですが、そうではないとなった時、例えばどういうやり方があるかアイデアをお持ちですか。

西村委員

今のは、私の言い方がそのように聞こえたのだらうと思うのですが、私はコミュニティセンターを否定しているわけではなく、それも1つの有力な方法だらうと思うし、そういったNPO等が作れば非常に大きな力になっていく事は間違いないし、そういう方向性が間違っているとは私個人的には思っていません。そういうことも含めて話し合っていくことは必要だらうと、今ものすごく必要性を感じています。特にどこ辺りが必要かと言えば、中心部の方が必要ですよと思っているだけです。

沖田委員

先ほど永見委員が課題解決と言われて、今、浜田自治区の課題が露呈したと思います。飛野委員、三隅の課題は何ですか。

飛野委員

まちづくりについてですか。結局は集落機能の維持です。この部分が潰れてきているから全てがやはり問題化になっている。そこから草刈りの問題とか、いろいろ生じている。集落機能の衰退は高齢化に伴うものです、その部分について提言もしましたように、何とか乗り切っていけるような方策を出すのが課題です。

沖田委員

永見委員、川上委員、金城の課題は何でしょうか。

永見委員

私どもも課題解決事業でいろいろ取り組んでいるのは、特に景観であるとか諸々の地域の維持をするために、地域の皆さんがどのように地域の課題としておられるかを話し合いながら、その辺りを一つずつ詰めて解決していく方法を皆で相談しようではないかといってやっています。それが主な課題解決でもあるし、全会の凍結防止の件は、まちづくりが対応してくれた課題解決の一端です。地域で生活していく中でのあれこれを話し合いながら、それを課題の1つとして取り組んでいこうとやっています。

川上委員

同じ金城ですが、金城に置いて一番の課題だったのは、飛野委員が言われたのと同じで集落機能の低下です。高齢化、少子化、周辺の諸々のことです。金城においても中心になる雲城地

区等においては浜田と一緒にです。その辺の人は意外と考えません、そういうことを。自分らが良かったら良いという考えの人も結構います。かと言いながら、役場周辺は過疎化が進んでいます。同じ現象を起こしています。真ん中の方は今いる人間で何とか周辺を繋ごうとしているのが現状だと思います。

芦谷委員

あえて言います。出身が美川で今は周布にいます。美川集落は高齢化が進んで後が大変だという感じです。今いる周布は、まちづくりが進んでいると思われていますが、それもこれも、やる人はやる、やらない人はやらない。なかなか本当に皆で盛上げようという所までは行ってないです。特に周布地区に縁遠い人の参画が薄いですし、そういう面で言えばコミュニティをしっかりと作るという問題がまだまだ周布にはあると思っています。

沖田委員

各先輩方、各地域の課題をありがとうございます。別にそれが言いたかったわけではないのですが、課題となると皆さん議員とは言え住民なので話をします。進んでいる地区も遅れている地区も皆同じです。浜田は残念ながらその仕組みがただできてないということで、これがまた1つの課題になる。だからそういうものをできるための公民館機能ということを議論できたらと思うのですが。

川上委員

公民館で課題を伺う方法はないかと沖田委員が言われた。その前に三浦委員が言われていた、防災の観点から浜田全体で自主防災組織を100パーセント作ろう、そのためには公民館に防災スペシャリストを置いて頑張ろう、浜田は浜田で、1人で足りないなら複数人置いて良いと思う、それで100パーセントに達した時に初めて、まちづくりが皆見えてきて、分かってきて進むのではないかと思います。

串崎委員長

時間も迫ってきましたので。どうしても今日言っておかないといけないことだけ伺いますが。

今日はこうした議論をしたという形で、今日の所はこれで終わりたいと思います。一応、「公民館のコミュニティセンター化について」を中心に提言書をまとめるということによろしいですか。

(「はい」という声あり)

月に1回、2回のペースで議論を重ねていかなければいけないのかなと思いますが、どのような形にいたしましょう。一応議論だけは重ねていきたい。

佐々木委員

コミュニティセンター化はいろんな形があるし、執行部もまだ試行錯誤しているように大変難しいので。もちろん我々も勉強したり、先進市を見たりするけど、それにしてもその成功事例が浜田にはまるかも別問題なので。真似をすれば上手くいくというのはあり得ない話なので。浜田に合ったコミュニティセンター化の中身を作るのはとても大変な作業だということを言っておきます。だから何をしろと言うわけではありませんが、そのことを私は言っておきます。

西村委員

思い出して振り返ってみると、社会教育委員の会が2、3年前に何かを出してなかったかな。緊急提言。

串崎委員長

緊急提言という資料だそうなので、それを皆様に何とか用意していただきたいと思います。

それでは会を閉めたいと思いますが、次の開催日程を決めたいと思います。7月中に1回はやりたいと思いますが、いつにいたしましょう。

(以下、日程について自由討議)

8月7日(水)の10時からにします。

その他にございますか。

(「なし」という声あり)

なければ、閉会いたします。ご苦勞様でした。

(閉 議 15時 25分)

浜田市議会委員会条例第65条第1項の規定により委員会記録を作成する。

自治区制度等行財政改革推進特別委員会 委員長 串崎 利行 ㊞